

## 平成 30 年度 鳥取市宝木小学校 学校経営方針

### (1) 宝木小学校の児童の課題

本校の課題は、以下の四点に集約できる。

- A 国語力、特に「語彙力」、考えたり表現したりする力の育成
- B 特別な支援の必要な児童に対する適切な組織的な対応
- C 人との関わり方を学ぶ
- D 社会生活に必要な基本的なルールやマナーの習得

### (2) 教育の目標（教育基本法 2 条）

子ども達に養わなくてはならない 5 つの態度が以下の内容である。

- ① 真理を求める態度（学びに向かう） \*（ ）の中は長谷の補足
- ② 勤労を重んずる態度（自分から進んで働く）
- ③ 社会の発展に寄与する態度（社会のため、人のために）
- ④ 環境保全に寄与する態度（持続可能な）
- ⑤ 国際社会の平和と発展に寄与する態度（グローバルな課題）

### (3) 学校教育目標

小学校教育は、子ども達が持って生まれた能力を伸ばしながら、知徳体にわたる力や態度を身につけ、社会的自立の基礎を養い、将来「国や社会の形成者」として寄与できる資質を養うことが役割である。

### (4) 宝木小学校の学校教育目標

前記の教育基本法、学校教育法を踏まえ、本校の学校教育目標は、平成 29 年度と同様に下記のとおりとする。

夢をもち、友達とともに成長し、世（社会）のためになる 人としての素地を養う

「夢をもつ」とは、希望であり、願望であり、目標であり、望み等を描くことである。

「友だちとともに成長し」とは、その夢を実現するために仲間である友と協力したり、助け合ったり、支え合ったりしながら取り組むということである。

「世のためになる」とは、そうした取組が、自分のためのみならず他のためにもなるということである。

そして、何よりも、小学校教育であるから、「賢く」（知）「優しく」（徳）「逞しい」（体）力の基本てきな部分（素地）を育てていく。

従って、非認知能力の育成もこの目標に係わる。

### (5) めざす学校像

- ① 先生も子どもも育つ学校（共に学びに向かい、学びを楽しみ、向上し続ける学校）
- ② 望ましい人間関係を築き上げる学校（学校、家庭、地域で人間関係力を）
- ③ 安心して学習したり生活できる学校（安心安全な学校）
- ④ 基本的なマナーが身につき、明るく笑顔が溢れる学校

### (6) めざす教師像

教師ほど子ども達に大きな影響を与える環境はない。

教育者自身が自らの教師力を向上させるために学び続け成長し続けることが児童の育ちに反映する。「学び続ける者だけが、子ども達の前に立つことができる」とは、幾人もの先達の言葉である。教師が学ばなくなったり、子ども達への愛情、教育への情熱の泉が枯れたとき、教育は停滞没落する。

- 一 謙虚に学び続ける教師
- 二 情熱を持ち、愛情を持って子どもを導く教師
- 三 自らの人間力を磨き、後ろ姿で子ども達を感化できる教師

#### (7) めざす子ども像

- ① よく考える賢い子ども (知)
  - ・毎日読書をする子
  - ・だまって先生や友だちの話を聞く子
  - ・丁寧に作業ができる子
  - ・自分の考えをノートに書く子
  - ・先生や友だちの助言を素直に聞き入れる子
- ② あきらめずやり遂げる子 (徳)
  - ・毎日宿題等をやり続ける子 (努力の継続)
  - ・黙って掃除、黙って移動ができる子 (我慢の力)
  - ・失敗しても、再度挑戦する子
  - ・目標に向かってこつこつ努力する子
  - ・「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子
- ③ 心身ともに健康な子 (体)
  - ・気持ちのよい挨拶ができる子
  - ・爽やかな返事のできる子
  - ・後始末や整頓ができる子
  - ・丁寧な言葉遣いのできる子
  - ・我が儘にならず、友だちと仲良く遊べる子
  - ・明るく、笑顔のある子
  - ・元気な子

#### (8) 学校教育目標に向けた重点目標

- ① 基礎基本の力 (音読、漢字、短作文、計算、都道府県名等) について、繰り返し指導し全員に習得させる
- ② 子ども達に言葉の力をつけるため、読書 (マンガでなく) タイムの徹底、日常の読書活動の奨励、図書館の活用、辞書の活用等、あるいは国語以外の教科での教科書音読を徹底する。
- ③ 考える力をつけるために「書く」ことに力を入れ、できるだけ、自分の思いや考えをノートに書かせるようにする。
- ④ 子ども達一人一人の特性を理解に努め、個別に配慮の必要な児童については、全教職員で共通理解のもと指導支援を行う。
- ⑤ 学校全体で、基本的な生活習慣やマナーを身につけさせるように取り組む。

- ⑥ 友だちとの関わりを授業や行事他全ての教育活動の中で育て、よりよい人間関係がつけられるように配慮する。
- ⑦ 目標を持って学習に取り組めるよう、目標（めあて）を意識した活動をし、必ず評価し次の活動に繋がるようにする。
- ⑧ 学校運営協議会を通して、地域の方を授業に活用したり、公民館や地域の行事を利用した学習をするように努める。
- ⑨ IT を活用した授業を行ったり、デジタル教材をどんどん使い、情報化に対応する力の素地をつけるように努める。
- ⑩ 若い先生を育て、年配の先生も若い先生に学び共に学ぶ研修を行う

専門職としてのプロ教師として、組織人として協働教師として、ポジティブに教師という仕事を楽しんでいける一年にしたい。

平成30年4月吉日 校長 長谷博文